

## 令和元年度総合相談窓口（ランチ）課題対応取組み報告書

名称		梅田東地域総合相談窓口（ランチ）
活動テーマ	高齢者の予防意識の向上と、問題の早期発見・早期介入を行う	
地域ケア会議から 見えてきた課題	<p>1. 地域とのつながりが希薄な高齢者が、加齢や疾患による閉じこもりがちな生活等で生活機能の低下が生じても周囲に把握されず、状況が悪化してから表面化し相談につながるケースが多い。また認知症症状の進行に伴い、近隣者が対応に戸惑い住み慣れた場所での生活の継続が難しくなるケースがある。</p> <p>2. 圏域は高層マンション建設が進み、近隣との交流を好まず、地域とのつながりを持たない生活スタイルの住民も増えていくと予想される。支援対象者の早期把握には、近隣・マンション管理組合等の協力が得られやすい関係づくりに向けた取組みが必要である。</p> <p>3. 平成30年から取り組んでいる北天満地域は令和元年度より予防運動が開催される。</p>	
対象	圏域内地域住民	
地域特性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当圏域が梅田周辺で高層マンション、商業エリア、古い町並みが混在し多種多様な方がいる。特に高層マンションに転入者が多く人口の増加傾向にある。そのため、セキュリティの問題から地域関係者が介入しにくい状況にある。</li> <li>・圏域により高齢者の予防意識に違いがある</li> <li>・圏域内には主要病院が集中している</li> </ul>	
活動目標	<p>1. 高齢者自身の健康、予防意識を高める</p> <p>2. 高層マンションへの周知や啓発により情報共有ができる</p> <p>3. 北天満の百歳体操参加者が増え、地域の予防意識向上に努める</p>	
活動内容 (具体的取組み)	<p>1-1地域住民の実態把握と意識づけ、身体変化の早期発見と対応（継続活動） 実施地域：梅田東 済美 北天満</p> <p>1) 脳活性化プログラムの実施</p> <p>2) 参加希望者には体操前に血圧測定を行い、体調の聞き取りをし自己管理能力を高める</p> <p>1-2地域住民の健康意識を高める</p> <p>1) 済美地域での体力測定と講演会</p> <p>①令和元年5月29日（水）済美はつらつ脳活性化教室参加者への体力測定 実施協力者：グッドライフケア、保健師、CSW、北区包括 参加者27名</p> <p>②令和元年10月30日（水）「済生会中津病院の薬剤師が話す薬の話しパート2」 講師 済生会中津病院 薬剤師 萱野勇一郎 参加者38名</p> <p>③令和2年1月29日（水）「加齢による痛みと筋力低下～無理のない身体作り～」 講師 済生会中津病院 理学療法士 岡田和也 参加者39名</p> <p>2) 北区包括・ランチ地域 令和元年11月2日（土）「福祉用具&amp;健康・介護食フェア」北区包括と共催 参加者162名 福祉用具の展示・試乗 宅配弁当・介護食の紹介 健康測定</p> <p>1-3地域関係者との情報共有</p> <p>1) 北天満地域、済美地域、堂島・中之島地域の民生委員会への参加</p> <p>2. 高層マンション地域及び高層マンションへの周知や啓発</p> <p>1) 堂島・中之島地域出張相談 ふれあい喫茶時間内にCSWと協働開催 令和元年6月22日（土）、9月28日（土）、10月26日（土） 11月30日（土）、1月25日（土）</p> <p>2) 高層マンションでの講演会</p> <p>①グランフロント大阪出張相談会 令和元年6月18日（火） 相談員 梅田東ランチ 富鶴真由美 予約相談者2名、当日相談者1名</p> <p>②ザ・梅田タワー住民向けセミナー 終活について学ぼう 司法書士 林英樹 参加者5名</p> <p>3) 高層マンション・マンションへの周知活動</p> <p>①北区マンションコミュニティ支援事業2019 グランフロント大阪防災講座にて包括・ランチ周知活動 令和2年1月27日（月）、同年2月1日（土）</p> <p>②実際に相談者が出たマンション、築10年以上経過しているマンションへ 出向き、管理人室へランチパンフレットを配布。11か所</p> <p>3-1北天満地域の予防意識向上の働きかけ</p> <p>1) 令和元年9月6日（金）北天満百歳体操活性化支援 OGMラボによる筋力測定 参加者20名</p> <p>2) 令和元年12月12日（木）常盤湯にて筋力測定会 OGMラボによる筋力測定、生活支援CD、包括・ランチより百歳体操案内 と介護出張相談。参加者20名</p> <p>3) 予防意識向上のための講演会 令和元年9月21日（土）「加齢による痛みと筋力低下」無理のない身体作り 講師 済生会中津病院リハビリテーション技術部 岡田和也 参加者10名</p> <p>3-2市営住宅内高齢者実態把握 平成30年7月～9月70歳以上高齢者家庭訪問 83名対象 令和元年度はデータ分析を行ったため令和2年度は再訪問する</p>	
成果 (根拠となる資料等が あれば添付すること)	<p>1. 地域高齢者への予防講演の開催や脳活性化プログラムの実施を継続することで地域住民との関係性もでき、血圧測定時などに介護相談を受け早期介入に繋がっている。</p> <p>・講演会は薬剤師と理学療法士から、内服管理やフレイル予防関連の話に参加者との対話も含めて講演してもらい好評であった。アンケートでは講演内容を生活に取り入れようと思う方が多く、予防意識の向上に役立ったと思われる。</p> <p>2. マンション管理会社へのランチ周知活動により、2つのタワーマンションで出張相談と住民向けセミナーを開催することができた。</p> <p>3. 集中取組みを行っている北天満地域に関しては、生活支援CDやOGMラボと協力し筋力測定会を行い、中津病院理学療法士の講演会も行った。講演会は地域社協会長からも継続依頼があり、アンケートには栄養について聞きたいという声もあった。</p>	
今後の課題	<p>1. 高層マンション、マンションへの周知活動を継続し、特に実態把握が不十分な堂島・中之島のマンションで暮らす高齢者の実態把握について北区地域包括、地域関係者と協力してアプローチを検討する。</p> <p>2. 北天満地域は引き続き、住民の予防意識向上のため関係機関、地域関係者と協議して取組内容を決定していく。扇町市営住宅への再訪問を北区地域包括と協働実施する。</p> <p>3. 相談実人数の増加により一人ランチでは窓口で在籍することが難しくなっている。</p>	
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和2年7月29日（水）	
専門性等の該当	<input checked="" type="checkbox"/> 地域性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続性 <input type="checkbox"/> 浸透性 (拡張性) <input checked="" type="checkbox"/> 専門性 <input checked="" type="checkbox"/> 独自性	
今後の取組み継続に 向けてのコメント (区地域包括支援センター 運営協議会からの意見)	北天満地域の予防意識向上の取組は戦略的に実施し、アンケート結果からも参加者の意識向上につながっている。マンション居住者へ出張相談の実施や防災講座に出向き活動の周知など新たな手法で活動し、またマンションアプローチの日々の活動からマンション管理人との関係を構築していることも評価できる。今後も取組みを推進してほしい。	

令和元年度総合相談窓口（ランチ）課題対応取組み報告書

名称 豊崎地域総合相談窓口（ランチ）

活動テーマ	地域包括ケアシステムの推進と地域との共同支援体制の確立
地域ケア会議から 見えてきた課題	○地域のネットワークにつながっていない方を地域へつなぐ ○早期発見・早期支援につながる関係作り ○地域関係者や多職種との支援体制の強化
対象	本庄・豊崎地域住民
地域特性	○流動人口が増加しており、地域ネットワークが分散している ○地域関係者による福祉活動への熱心な取り組みがあるが、地域のネットワークにつながっていない住民が存在している。
活動目標	○地域住民に総合相談窓口への周知を進め、相談しやすい関係を構築する。 ○地域において「心配な高齢者」に対する感度を高め、早期発見・早期支援につなげる。
活動内容 (具体的取組み)	(1) 本庄UR住宅におけるカフェ活動支援 運営会議 毎月1回 開催日 7月25日 夏祭り 10月26日 健康体操 12月21日 クリスマス会 3月28日 健康講演(コロナ肺炎の影響で中止)  (2) 認知症カフェによる専門相談 大淀老人福祉センター 1階会議室 毎月第三木曜日 14:00~15:00 大淀包括支援センターとの協働で専門相談を実施
成果 (根拠となる資料等が あれば添付すること)	(1) 毎月会議を開催でき、カフェについても3回開催できた。年間を通して活動を継続できたことで、次年度以降のカフェ活動継続に向けて住民の自信を深める結果となった。その為次年度以降については、毎月の会議とあわせてカフェを毎月開催し、3回講演会を行うことが決定した。 (2) 周知が進み、相談目的で訪問される方が出てきた。また大淀老人福祉センターを普段利用されている方の中で最近の様子が心配な人にカフェ参加の促しがあるなど、包括的な相談の場としての体制が構築できた。 (3) 気軽に声をかけていただけるようになるなど、顔の見える関係が構築できた。高齢者虐待防止のパンフレットを配布するなどの権利擁護、人生会議（ACP）の資料配布するなど啓発活動、などを行い様々な情報提供とができた。
今後の課題	(1) スタッフ・参加者が固定化がみられ、参加者の増加を目指し、月に一度小規模でも定期開催を目指していく。 (2) 相談者が増えるよう、個別訪問時にカフェの周知活動を行う。今年度も講演を開催し、新規参加者の増加を目指す。 (3) 気軽に相談してもらえるよう、周知活動を行っていく。
※以下は、区包括運営協議会事務局にて記入。	
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和2年7月29日(水)
専門性等の該当	<input checked="" type="checkbox"/> 地域性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続性 <input type="checkbox"/> 浸透性 (拡張性) <input checked="" type="checkbox"/> 専門性 <input type="checkbox"/> 独自性
今後の取組み継続に向けての コメント (区地域包括支援センター 運営協議会からの意見)	UR住宅におけるカフェの継続した活動を地域住民と共に取組み、次年度の更なる活動につなげるよう支援したことは評価できる。今後も日々の活動から、地域と共に高齢者支援のネットワーク構築を図り、地域高齢者と地域をつなぐ取組みを行ってほしい。また、ランチの活動の周知も強化してほしい。

令和元年度総合相談窓口（ランチ）課題対応取組み報告書

名称 大淀地域総合相談窓口（ランチ）

活動テーマ	様々な「ツール」を活かした『福祉・包括ケア・まちづくり推進』 ～支え学び育て合い～共感～
地域ケア会議から 見えてきた課題	「認知症」「精神疾患」「金銭管理」「環境、家族介護力」など複合的課題が増えている現状がある。ご本人や家族、周囲の地域住民が安心して暮らすためには、この現状を共有し、理解できるまち、早期に発見できるしくみ、情報が行き渡るまち、窓口がわかりやすいまちを目指すことが必要である。まさに、移りゆく地域特性からも、地域住民、企業などを交えた多機関による、発想の転換必要な時期である。新たなターゲットと、これまでのツールを活かしながらも、協働、共感しながら一緒に「ゴール」を設定していくことが求められる。また、その過程で、住民、専門機関、企業などが、同じ方向を目指して、幅の広い、より深い関係を作って意見交換を行い、具体的な解決策を導き出す必要がある。その際、役割分担、主担当等、終結、見守りのみ等、しっかり誰もが理解できる「ゴール」と現在の支援の位置がどこなのかということも共有していくことが必要。いずれも限りのあるもの、これらをどう乗り越えるかが大きな課題とな
対象	各圏域住民と関係機関 (地域の活動団体(地域連合町会、地域社会福祉協議会、地域福祉活動協議会、民生委員や地域福祉コーディネーターを含む)、医療機関、関係福祉専門職と母体、職業体験中学生、郵便局、集合住宅居住者)
地域特性	中津は、北区の中でも高齢化率が高い地域。路地は狭く、消防車も入らない路地が数多く組む長屋、商店街が密集する。火事を恐れる住民の声は高い。また、災害が発生すると帰宅難民が多く発生することも予測される。大阪駅前二期工事から、今後、中津、大淀ともに、大きく変化していく。先住住民と、高層マンションに転入された新住民との双方のつながりが今後のネックとなる。若い世帯の転入、高齢者の転入も増え、今後、ますます増えることが予測される。どのように地域とつながるのかといった具体策も必要
活動目標	小地域圏域での、地域住民、あらゆる関係機関等が協働し、包括ケアにおけるつながりを、より深化したものにしていけるため、様々なツールを意識して、日々の活動で共感を持って「ゴール」を目指す。認知症ツールを活かせるしくみの取り組みを継続していたことから、他の課題(具体的には、見守り体制の強化、後には、意思決定支援に基ずく、成年後見制度利用促進)へも活かせるしくみを協働しながら丁寧に築いていく土台をつくる。
活動内容 (具体的取組み)	【ツール1:認知症】では、(大淀東はつとひと憩ひたまりカフェ)等専門職スタッフとして可能な限り参画。(オレンジチームチーム員会議)個別ケースを検討、北区の傾向や連携上の課題等を共有し医療機関との連携が密になってきた。 【ツール2:喫茶、カフェ、高齢者食事サービス、脳活性化プログラムなど】では、窓口周知、地域住民のつぎゆき収集、意見交換の場を持った
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	2014年からの流れある継続活動の成果として、ひとつのツールを活用することで可動してくると、別の課題にもそれを活かすことができるようになってきている。例えば、大淀西の地域活動福祉活動策定委員会では、地域の課題でもある『認知症』だけでなく『障がい』について、地域自らが主体となって、「障がい」について、学習の機会を得ることができた。地域力をさらに高めていく過程のひとつとなっている。関係者間で学習を深めながら、視野を広げていくことができた。また、母体組織に対しても、単発イベントから継続イベントへ移行し、さらに、地域の声、入居者の声、職員の声を聞き取りタイムリーに対応できる力を蓄積してきている。地域においては3地域の課題、カラーを見極めながら活動できる体制への土台ができた。
今後の課題	支援に繋がっていない認知症の方や虐待を早期に発見すること。最後まで意思決定ができるようにサポート体制を構築すること。成年後見制度の啓発と受け皿状況の把握、整備も必要。早期からのCMとの役割を持った連携。しかし、相互の特性を熟知することと、多業務の中での折り合いの中でタイムマネジトや、個のみでなく、システムへの働きかけが必須。効率性と時間をかけて関係を深めることとの相互のバランスを保つことはとても難しい。ここでも受け皿として、マンパワーの課題が発生する。どれもこれも限りのあるものでどう乗り切るかは、今後、どれだけ、一丸となれるかがカギ。
※以下は、区包括運営協議会事務局にて記入。	
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和2年7月29日(水)
専門性等の該当	<input checked="" type="checkbox"/> 地域性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続性 <input type="checkbox"/> 浸透性 (拡張性) <input checked="" type="checkbox"/> 専門性 <input type="checkbox"/> 独自性
今後の取組み継続に向けてのコメント (区地域包括支援センター 運営協議会からの意見)	様々な地域活動に出向き、住民や地域、関係機関の声を聞き、課題の共有や連携支援への取組に努めていることは評価できる。今後も支援が必要な方に早期に介入ができるよう取組みを継続してほしい。

